

■第1回の議事録（概要）

日 時：令和2年7月14日（火）14時～15時30分

場 所：地域福祉活動支援センター 4階会議室

出席者：鶴野会長、山中委員、山下委員、稲田委員、榎谷委員、森委員、下村委員、島内委員、
浅岡委員、樋口委員、花野委員、小林委員、野村委員、

事務局：障害福祉課3名、子育て支援課3名

次 第：1 案件

- （1）委員の紹介について
- （2）会長の選出について
- （3）第5期摂津市障害福祉計画等の令和元年度実績について
- （4）摂津市における障害福祉の現状について
- （5）次期摂津市障害福祉計画等について
- （6）その他

会議の経過

○開会あいさつ

○配布資料の確認

○委員紹介、事務局紹介

○会長の選出（鶴野委員）

（鶴野会長）

- ・では引き続き案件に入っていきたい、事務局より説明を。

○事務局より第5期摂津市障害福祉計画等の令和元年度実績について資料説明

（鶴野会長）

- ・説明のあった内容について意見や質問があればどうぞ。
- ・特にないようなので次の案件へ。

○事務局より摂津市における障害福祉の現状について資料説明

（委員）

- ・虐待通報について、被虐待の疑いのあった当事者の年齢層が分かるのであればうかがいたい。
- ・B型の工賃だが、全国割合よりは上回っているが、今後の工賃向上等の対策があるのかうかがいたい。

(事務局)

- ・虐待の被害者の年齢層については、先ほど報告した一時保護した人は20代で、昨年度9件通報のあった案件については概ね20～50代と、年齢層に偏りはなくまんべんなくとなっている。また、昨年度に限らず年齢層の偏りはない。障害者の虐待は上は64歳までという形になるが、60代の虐待はあまりなく、20～50代までまんべんなくというのが毎年の傾向だ。
- ・B型の工賃対策だが、難しい問題と捉えており、市としては3年ほど前から小型家電からレアメタルを取り出し売却することで、市民や商工会を通して企業からパソコンを回収する事業を開始している。摂津市役所内で出たパソコンなどについても利用しているが、なかなかそれを毎年毎年確保していくというのは非常に難しく、事業所で営業活動なども行っているが実を結ばず難しいというのが現状だ。

(委員)

- ・虐待については、支援学校、高等部などでも虐待ケースがある。18歳までは要保護児童対策地域協議会での対応になると思うが、その辺りの引継ぎについてどのように考えているのか、または既に何か具体的な対応があるのかうかがいたい。

(事務局)

- ・以前、支援学校の既に18歳になっている生徒が家庭内で虐待にあっているのではないかという案件があり、それについては18歳になっているということで障害福祉課で動いていったケースはあった。・18歳になる前の案件については要保護児童対策地域協議会の方との連携が足りていない面はあると思う。家庭児童相談課については吹田子ども家庭センターと連携していることも多いが、障害福祉課として障害の虐待について連携はあまりしていない状態だ。

(鶴野会長)

- ・グループホームのニーズがあるのになかなか進まない要因は何なのか。

(事務局)

- ・事業者から話をきくところの時世、なかなか職員が集まらないということがあるようだ。求人をかけても応募者が少なく、人手を確保できず悩んでいるようだ。
- ・また、グループホームを運営していくにあたっての給付費、運営についても現状では厳しいとの意見もあるので、これについては府への要望を行っていく。

(鶴野会長)

- ・他になれば次の案件へ。

○事務局より次期摂津市障害福祉計画等について資料説明

(委員)

- ・アンケートの内容について、問10、きょうだいについて、一般的にはどの表記でもきょうだいと読むが、迷わないように兄弟姉妹としてはどうか。
- ・問33、災害に関わる部分だが、地震と限定的に取り上げられているが、今は水害が心配されているし、摂津も浸水すれば被害は大きいと聞いている。避難所の対応を考えた際にも、地震の被害が発生した後に避難所へということになると思うが、水害の場合、事前に避難

をしてほしいので誘導しなければならない面があることと、地震と水害では避難所が異なると思うが、そのあたりの知識の差などもあると思うので、地震と限定するのはどうかと感じた。

- ・避難への躊躇についてもあるので、二次避難所や福祉避難所を行政が用意しているといった部分を知っているかどうか、安心感の周知につながるような工夫をしてはどうか。

（事務局）

- ・きょうだい表記については、あえてひらがなにすることで兄弟姉妹どちらにもなるように考えたものだが、この場でも議論いただき指示をいただければ修正したいのでよろしくお願いしたい。
- ・災害の避難所については、地震などと地震に限定されないように変更したい。福祉避難所についてはこれまでも災害に対する冊子を配布するなどし周知に努めてきているが、アンケートも機会になるようであれば検討したいと思う。

（鶴野会長）

- ・「地震など」でいいだろうか。

（委員）

- ・水害と明記してはどうか。

（委員）

- ・障害者の立場からすると、避難する際に福祉避難所か普通の避難所か分からないので躊躇するという声もあるので、その辺りを分かりやすく、「福祉避難所なら行きますか」など、漠然と避難するかではなくもう少し分かりやすく聞ければありがたいと思うのだが。

（委員）

- ・アンケートなので細かくしすぎると大変になってしまうと思うが、やはり福祉避難所という部分は必要だと思う。車いすや内部障害等への対応については、別の機会に障害福祉課として啓発パンフをつくっていただければと思う。
- ・きょうだいについては、漢字で書いてふりがなを打っていただければと思う。
- ・障害福祉サービスについて、7、8ページに出てくるが、障害を持っている人たちが正式なサービス名を知っているとは限らない。できれば調査票に綴じこまずにカラーでサービスの説明を付録でつけてもらえれば、アンケート後も活用できるのではないか。

（事務局）

- ・福祉避難所についてだが、少し理解が異なっており、第一次的には普通の避難所に避難していただき、福祉的対応の必要な人については二次的に福祉避難所を開設しそちらでケアするという流れになる。最初から福祉避難所へ行こうにも開設されていない。そういった点についても、周知の機会を設けていかなければならないと感じているので検討したいが、このアンケート内でそこまで説明するのは少し難しいと思われる。
- ・サービスの説明を付録にという話については、今回のアンケートについてはこの形のまま行わせていただきたい。ただ、障害者手帳の手続きの際に手引きを配布しているが、制度改正等もあるので、何らかの機会用語やサービスの説明を出来る機会が必要だと思うので、これについても今後も考えていきたいと思う。

（鶴野会長）

・確かに今回はアンケートという性格のものなので、周知を盛り込むのは難しい部分もあるだろう。

・水害を表記する件についてはどうか。

(事務局)

・地震・水害などとすることで、地震に限らないように表現したい。

(鶴野会長)

・ではきょうだいしまいの部分とあわせて分かりやすく調整を。

(委員)

・18歳以上調査票の間11、ヤングケアラーの問題等もあるので、就学は必要ないのか。子どもが精神疾患のある親の世話をすることでさまざまな本人の環境に影響が及ぶといった問題もあるので、もし可能ならそういった実態が今回のアンケートを通して把握できるのではないか。

(事務局)

・間11については、指摘の通りそういった状況もありうると思われるので、就学している人が世話をしているケースなど子どもへのケアやなども子育て支援課へつなげていくことが可能だと思われるので、項目を加えたいと思う。

(鶴野会長)

・確認だが、合計1,200ということだが、これは回収1,200を目指すのか、それとも配布が1,200なのか。

(事務局)

・配布数が1,200だ。

(鶴野会長)

・回収率はどの程度を考えているのか。

(事務局)

・前回45%なのでその程度は回収したいと考えている。

・前は設問が多く、全部で86問で24ページあった。設問が多いことで回答意欲がなくなることも考え、そこで今回はかなり圧縮し再編成しており、これにより回収率を上げたいと考えている。

・ちなみに前は18歳未満は33%ほどだったので、こちらでも圧縮し回収率を上げたい考えだ。

(委員)

・障害福祉サービスについて3つ選ぶ部分があるが、9番のその他を選んだ際に内容を書く場所がないのだが。

(事務局)

・指摘の通り、9番の選択肢の横に記入するようになっているが、縦の列で何度も出てくる想定にはしていなかったなので、ページ数を増やさないようにレイアウトを工夫したい。

(鶴野会長)

・ではその他案件、何かあれば。

○事務局よりその他案件、スケジュールについて案内

(事務局)

- ・この協議会については例年1、2回程度の開催だが、今年度については計画策定年度となるため、年5回程度を考えている。今後は2か月に1回、奇数月の開催を予定しているが、いったん減少していたコロナウィルス感染者が再増加しており、今後については社会情勢や市の方針を見据えつつ実施の可否を判断していきたい。
- ・事務局としてはなるべく会を開催したいと考えているが、状況次第では書面開催等のイレギュラーな対応となるかもしれないが、よろしくお願いいたします。

(以上)